

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第2回武蔵村山市まちづくり基本方針策定委員会
開 催 日 時	令和3年7月6日（火） 午前10時00分から午前11時45分
開 催 場 所	301会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：大沢委員長、岡村副委員長、青木委員、荒幡委員、 栗原委員、国井委員、圓地委員、三上委員、大塚委員、 永田委員、町田委員、須藤委員、高橋委員 檜山委員、白濱委員、大野委員、竹市委員 事務局：都市計画課長、同課係長（計画係）、同課係長（開発・住宅係）、 同課主事（計画係）
報 告 事 項	(1) 現況整理の概要 (2) 武蔵村山市のまちづくりに関するアンケート調査結果について (3) 現行のまちづくり基本方針の検証
議 題	(1) 分野別方針の構成について (2) 地域別構想の地域区分について (3) その他
結 論 (決定した方針、残さ れた問題点、保留事項 等を記載する。)	議題（1）（2）について 全体構想の将来都市構造、まちづくりの目標について事務局の考えを 整理し議論したあと、分野別方針、地域区分について再度検討し揭示し たい。 議題（3）について 次回策定委員会は、令和3年10月上旬に開催予定。（日時は、後日 通知）
審 議 経 過 (主な意見等を原則と して発言順に記載し、 同一内容は一つにまと める。)  〔凡例〕 ◎：委員長 ○：委員 ●：事務局	※ 委員の委嘱等 委員会に先立ち、一部委員に委嘱書の交付、委員の紹介及び事務局職 員の紹介等を行った。  【報告事項（1）】 ◎ P5 都市計画公園の一覧の数が文章と一致しないが、どこか廃止に なったのか。 ● 文章の記載を都市計画公園 計17か所と修正する。 ◎ P4 市の現状の都市計画道路は、区分3の幹線道路しかないのか。 区分7の区画街路や区分8の特殊街路はないのか。 ● 幹線道路しかない。区画街路や特殊街路はない。  ○ 市の全体がわかるデータを示してもらっているが、もう少し地区のス ケールやまちの姿がわかるような形での現況分析があるとよかった。こ こから課題等を見つけてプランニングしていくのは難しい。もう少し解

像度を上げて資料を作成して行ってほしい。

- 承知した。
- ◎ P6の浸水ハザードマップは、残堀川の1,000年確率のデータなのか、それとも100年確率のデータなのか。外水氾濫だけのデータなのか。前提条件をしっかりと記載して、市民の皆様に理解していただいたほうがいいのではないか。
- 現在の浸水ハザードマップについて、こういったデータなのか記載をしておらず、わかりにくい資料となっていることをお詫びする。委員長からいただいた意見の内容について記載するように修正する。
- ◎ 市民の方に間違ったメッセージになってしまわないように気を付けてほしい。「ハザードマップに色が塗ってないから安全である」といった間違った見解として伝わってしまう。安全を保障するものではない。前提条件を記載し、安全を保障するものではないことを伝えるようにしてほしい。毎年、大規模な災害が起きているため、都市として20年後を考えていく上でも、災害というのは非常に重要である。
- 承知した。
- 後ほどのアンケート結果もあると思うが、都市を見る視点は様々あり細かく見ていくのか広く見るのか、本日見ていく視点はどのレベルのものなのか教えてほしい。アンケート調査結果と対応して見るためには、アンケート項目の現状がどうなのか、ということが客観的に見えてくると思う。どういう項目で現況を整理しているのかという部分が重要である。
- 資料1は、市内の状況を知っていただくために作成した概要版である。副委員長の意見のとおり、今後全体構想や分野別方針の検討の際には深掘りしたデータが必要であると考えている。地域別といった内容については、次回以降示していく予定である。
- ◎ 都市を見ていく時に、客観的な視点からのアプローチと問題意識からのアプローチがある。この問題意識からのアプローチというのが非常に重要である。全体レベルと地区レベルの意識がある。次回からもこういった視点で現況を整理しているのか、それが問題意識につながっている。そのような視点の説明を先にしておいたほうが良い。
- 承知した。

#### 【報告事項(2)】

- 地区別の分析は今後やっていくということによろしいか。今回は、市全体で出しているという認識によろしいか。
- そのとおりである。
- ◎ アンケート調査は重要なデータであるため、地区別やクロス集計での集計をしていただきたい。その結果が問題意識の塊であるため、今後の

まちづくりに活かしてほしい。

- 少し気になったのが、若年層アンケートの回収率が25%と低いように感じる。その中でも、中原地区の回答者が1名(5.3%)しかもらえておらず、一方、神明地区や学園地区は約47%と高い回答率である。20歳以上との回収率に差があるように感じるが、何か理由はあったのか。元々の配布数も300件と少ないが、若年層向けに追加でアンケート調査などを行う予定はあるか。
- 15歳から19歳までの各地区の人口の割合からアンケート配布数を決定し送っている。回収率が低かった理由は、周知の方法が良くなかった、意識の低さの問題があると考えている。追加のアンケート調査等についての予定はない。
- ◎ 一人というのは、確かに低い数値であり気になる点である。アンケート調査は紙配布で実施したのか。将来的にはwebで回答できるようにしたほうが回答しやすくなるのではないか。市としてもIT化を進めていったほうが良い。webにしておく、追加依頼もやりやすく、郵送代等も必要ない。ぜひIT化を考えてほしい。また、サイレント層(回答しない市民)がこれだけいるということは、今後のまちづくりを進めていく上で考察しなくてはいけない点である。興味が無い層が多いというのは、持続的な都市をつくるまちづくりをする上で課題になる。アンケートの回収率ではなく、こういった層がいることを理解してほしい。

### 【報告事項(3)】

- 実施済みや未実施の判断は、担当部署に何っての結果ということであるが、実施済みという意味をもう少し具体的に教えてほしい。実施済みになっているものは、完全に終わっていてこの先やらないということなのか、もう少し違う意味を含んでいるのか、そのあたりを含めて教えてほしい。
- 実施済みは、現在施策が完了しているものを指しているが、今後も継続してやらなくてはならない事業もある。また、実施中となっているが、実施済みの事業もある。事務局の質問の仕方が悪かった部分もあるため、今後の施策を展開していく中で確認し、詳細に示していけたらと思う。
- 承知した。指標の出し方との関係もあるため、現在の資料を精査し終えたら、各課で基準がずれないように対応したほうが良いと思う。
- ◎ 重要な指摘である。少し基準があいまいではないか。正直に言うと回答者によって軸がずれているデータは使えない。同じ庁内であればずれない軸、例えば事業費の充当ベースを利用するなど、客観的に見てわかりやすい数値的なデータで示せるようにしたほうが行政側として良いのではないか。行政側の想いでやっていたら、予算との関係等がわからなく

なるため、軸はしっかりしていた方が良い。

- 承知した。
- 32施策72項目に対して199個の評価がされたとあるが、どこから項目を抽出しているのか。評価の手続を、もう少し丁寧に説明していただきたい。
- 検証の評価のもとになった検証シートがあるが、先ほど委員より指摘いただいた点について事務局で整理ができておらず、本会議に提出が間に合わなかった。後日、皆様に資料を配布したいと考えている。項目の抽出方法は、現行のまちづくり基本方針に記載されていた内容で各課に関わる部分を抽出して配布した。事務局からは「実施済み、実施中、未実施」の3項目に分けて評価をするように回答をお願いしていた。ただ、軸がぶれている部分があるため、精査してから委員の皆様配布したいと考えている。
- その項目は、どれくらい細分化されているのか。例えば、「環境に配慮したまちづくり」の施策の中に3つ項目があるが、このレベルで聞いているのか、それとももう少し具体的な事業レベルで聞いているのか。道路であれば都市計画道路の○号線というレベルもあれば、細かい区間も対象にできるが、どのようなレベルなのか。
- 施策の各項目のレベルで各課に確認している。
- ◎ どのように質問したのか我々が把握しないと、この評価がどうなのかという部分が理解できない。どのように質問して、そのように細分化して評価が199個になったのか、次回もう一度説明してほしい。
- 承知した。
- 未実施の項目が挙げられているが、未実施である背景や要因を教えてください。P2表の、市の進捗状況評価が高いにも関わらず、住民の評価が低い理由がわかれば教えてください。
- 未実施の理由は、「予定がない」、「内容が詰め切れていない」、といった回答や、産業振興ビジョンの策定も同時に進んでいるため、「産業振興ビジョンで検討する必要がある」、といった回答があり、未実施の評価になっている。また、単純に「該当の工事案件が出てきたときに検討する」、といった回答もある。現行のまちづくり基本方針には、所管課と確認した施策を記載していたが、未実施の項目が散見される。新しく全体構想、地区別構想を練っていく際には、所管課にヒアリングした上で計画に記載する施策を決定してこうと考えている。また、やさしさ・ふれあいのあるまちづくりに関して、市の施策としてはやっていますが住民の評価は低い。例えば、バリアフリーに関して市は取り組んでいても、バリアフリーになっていない箇所が目につくことが予想され、市民の要望に対して100%にできない事業であることも事実だ

と思う。そういった部分の周知や啓発活動を進めていく必要があると思う。また、市民の方と考え方のすり合わせも今後進めていく中で重要な項目であると思っている。

◎ 特に、指摘された未実施がなぜ未実施なのか、ただ単に項目を挙げておいてもそのまま終わってしまうため、どうしてうまくいかなかったのか、できなかったのかといった部分について真摯に評価し、次の計画につなげて行ってほしい。前回の計画で載せていたからという理由で施策を記載するといった時代ではない。うまくいかなかった理由について今後説明してほしい。また、市民の方の考えと乖離がある点についても真摯に受け止めて、こういった点についてまとめて行ってほしい。

○ 空間的な概念が抜けているように感じる。今回の資料は、マクロな目線であれば一つの結果が見えてくるかもしれないが、どこでどういうことが起きているのか、どういった課題があるのかを地図上で表現し、空間的に見ていかないとわからない。都市計画を作るため、空間で勝負しなくてはいけないのではないか。

● 今後空間的な内容を踏まえながら検討したい。

◎ 現在の資料は、どちらかと行政の実施評価になっている。副委員長のいうとおり、どこで何ができていないかを図化したり、空間上で課題を見える化することが重要である。空間化しないと、計画を作れないと思う。是非対応してほしい。

● 承知した。

◎ まちづくり基本方針の中には、東京都の事業も関係があるが、東京都の評価はしていないということではよろしいか。

● そうである。あくまで市の内部の事業のみ評価している。委員長が言ったとおり東京都の事業が一部入っている内容もある。そのような内容について、都の事業所に確認はしていない。数値化等もできていないため、次回以降その点について検討した上で示していきたい。

◎ 都や民間の事業も都市の中に含まれているため、前提条件をしっかりと記載したほうが良い。また、現況整理の都市計画道路延長の新青梅街道に関しては、完成延長0mとあるが、30mに広げるための拡幅部分ができているだけではないのか。これを0mと表しているのか。そういった数値が結構見られるが、市民の方へ全く違うメッセージになってしまうため再度検討してほしい。本日提出していただいている報告事項の数値については、客観的なデータや根拠が重要となるので忘れないように対応してほしい。

◎ 以上、報告事項3点になる。委員会が終わった後に気になった点や意見については、別途1週間以内に市へ連絡することを提案したいと思っ

ている。

【議題（１）】

- ◎ 分野別方針の前段の構成はどのようになる予定なのか。第１章と第２章の構成は今回どのように考えているのか。全体の流れがないと判断ができない。その点について追加で説明をしてほしい。
- 第１章は武蔵村山市の概要を示し、第２章にまちづくりの目標と第五次長期総合計画を踏襲した将来都市構造を示す予定である。
- ◎ 第１章と第２章の議論は行ったのか。
- していない。
- ◎ 第１章と第２章から議論をしないと、第３章だけを抜き出して議論にて判断するのは難しい。
  
- 「みどり」と記載された内容がさまざまな分野別にあるが、公園・緑地の整備方針の中の緑地とは何を指すのか。
- 緑地に関しては、宅地内の緑地や景観の緑地も出てくると考えている。みどりに関しては、今後どの項目に入れるかは検討する予定である。今回の議題としては、あくまで分野別方針を都市計画の体系ベースに変えたいという内容である。
- 都市計画公園や都市計画緑地を基本的には「公園・緑地」と示している。民有地の緑地をイメージしているのであれば、しっかりと区別している方が良い。
- ◎ その中でもどういったイメージを持っているのか。都市計画決定されている緑地と分ける考えなのか、景観としての緑地として一緒に考えるのか。
- 事務局でそこまでの検討ができていない。今後施策を練っていく中で検討させていただくと考えていた部分である。区分については今後検討する。
- ◎ そのような回答だと議論ができない。しっかりと公園はここに入る、緑地はここに入ると決めていただかないと議論ができない。
  
- 本日、分野別方針を決定するのは難しい。分野別方針の中身についてもそうだが、アンケート調査を行ったのにアンケートとの関係性が見えていない。せっかくやった調査も生かされていない中で、なぜこの分野別方針なのかといった疑問がある。全体の目標から分野が出てくるため、本日決定するのは難しい。
- ◎ 全体像がない中で、細かい議論ができない。全体像についてはいつ議論する予定なのか。第１章、第２章という骨がないのに、いきなり細かい議論を進めると屋台骨が壊れてしまう。
- 全体構想を決定し、次の議題である地域区分を説明してからこの分野

別方針を議論すべきだったと思う。事務局の説明が足りない部分が多く、わかりにくい説明になってしまったことをお詫びする。今回の議題は、現行のまちづくり基本方針の分野別方針の抽象的な表現をなくし、都市計画の体系ベースという具体的な表現に変えていきたいという意図であった。

◎ 分野別方針の表現に関しては、言葉の綾だけになる。議論する場であるため、アンケート結果等を基にこういう思想で変えたい、こういった想いをもって変えたいという説明が必要である。だからこそ、全体構想や将来都市像から決定していく必要がある。表現を変えるだけであれば、アンケート調査は必要ない。市民の皆様が時間を割いて回答してくださったアンケートが活かされないという結果になる。もう少し体系的に考えたほうが良い。

○ 現行の分野別方針の「5にぎわい・活力のまちづくり」と「6やさしさ・ふれあいのまちづくり」を一緒にして、見直し案の「6活力あるまちづくりの方針」にした理由はあるか。

● 今回の見直し案は、都市計画の体系ベースを参考にしている。細かい理由があるわけではない。

● 補足で説明させていただく。今回、皆様に御意見いただいた案は、都市計画法に基づく項目を参考に分野別方針を振り分けたものである。これまでの計画の内容が大きくがらりと変わるものではなく、都市計画の方針を定めなければならないということから、このように分けた。まず、土地利用方針によって市内の用途地域や土地利用をどのようにしていくか、といった方針を定めていく。次に、道路・交通環境の整備方針は、現在市内で行っている道路整備やモノレールに関する事業等の方針を決定する大変重要な項目になっている。3つ目の、公園・緑地等の整備方針は、都市計画の施設として公園・緑地や、都市河川も市内に流れていることから、都市計画の施設として整備の方針を決定していく。4つ目の、安全・安心のまちづくりの方針は、近年の多発する災害や東日本大震災などもあったことから防災という観点が重要となっている。そこに防犯の要素も加えて、方針を決定していく。5つ目の、景観・環境の形成方針は、みどりという要素があるが、広域的なみどりや景観的なみどりである狭山丘陵を位置付けて、景観・環境の方針を決定する。最後に、いろいろな生活環境の観点やさまざまな要素を含めながら、生活環境の方針を定めるものとして、活力あるまちづくりの方針とした。また、3つ目については、みどりの基本計画といった別の法律で定められている関連計画がある。4つ目については、地域防災計画という関連計画がある。5つ目は、環境基本計画や、条例等に基づいて景観の検討に取り組んでいる。6つ目については、今年度産業振興ビジョンの策定が進められている。こちらは観光についても少し記載されているものがあ

る。それぞれの分野について、体系を分けてわかりやすくまちづくり基本方針を定めていきたいという主旨があり、資料に示した構成とした。今回決められないという点についても重々承知しているが、構成について意見をいただきたい。次回、全体構想として、それぞれの体系に分けた個別の方針について意見をいただく場面がある。その時に、副委員長から指摘を受けた空間的な状況把握を行い、それぞれの分野ごとの施設等の場所を示しながら課題を踏まえて方針について意見をいただき、分野別方針の構成についても再度御意見をいただきたいと考えている。

○ 承知した。今の内容を全体構想の最初に説明したほうが良かった。一般的に、都市計画よりもバリアフリーや高齢者・子育てに対する施設整備といった福祉課でやっているソフト対策のほうが、市民の方は関心があると思う。今回の案の中にはっきりとバリアフリーについての記載がないが、バリアフリーや高齢者・子育てに関する内容を落とすのであれば、「他の計画で記載する」「こういった施策がある」ということを最初にはっきり伝えたほうが良い。表現や書き方について検討してほしい。

● 承知した。

◎ 現行の分野別方針の方が良かったのではないか。バリアフリーや福祉に関してはそれだけで一つの法律があるため、章立てした方が市民の皆様にとってはやさしい都市である、ということがわかりやすいのではないか。分野別方針は6つにしなくてはいけないのか。

● 分野別方針の数について決まりはないため、7つでも8つでも構わない。

◎ バリアフリーや人々の生活を支える内容と活力、産業・観光は別なのではないか。その二つの分野を一つにするのは難しいのではないか。又は、委員の言ったように別の計画に譲るなどを記載する方が良い。ただそうなると法体系ずつに分けているという話と矛盾が生じる。市民目線を考えて再度検討してほしい。どちらかというとな前の計画は超市民目線である。

○ 行政の立場ではあるが、市民から見たら今までの書き方でもいいのではないかと思う。現行の書きの方が何をやっているか、ということがわかりやすい。ぜひ市民の委員にも、この場ではなくとも聞いていただいて、皆様がわかりやすい分野別方針の方がいいのではないかと思う。

◎ 都市施設の整備方針の中で、今後20年以内に都市計画決定が必要な施設、例えばごみ処理場や火葬場等はあるのか。もしあるのであれば、本計画にも位置付けておく必要がある。

● 現状把握している中ではない。

◎ 一度所管課に確認してほしい。本計画は都市施設の事務局になるような計画になるため、調べて把握しておいてほしい。



**【議題2】**

- モノレールでまちを分断しないで南北の交流ができるようなまちづくり、という一つの案としてわかる。しかし、これを掲示しようとするのであれば、もう少し理由の部分(モノレール)を強調して説明してほしい。現行の4区分案は直観的にわかりやすい。なぜ3区分の案にしたのか、きっちり理論付けていかないと、まちづくりを進めるときに整合性が合わないといったことや、市民の方の理解を得られないといったことにつながると思う。
- 委員のおっしゃるとおり、事務局の方ではきちんとした理論付けをとれていない。今回、この3区分でいいと委員の皆様から同意を得られた場合、アンケート結果を3地域でクロス集計し、特徴を出しながらそのデータを基に、理由につなげていくように考えている。南北のネットワークという意味合いを込めて、様々な施策を位置付けられるのではないかと思っている。
- 集約的なまちづくりの姿やそれぞれの3つのエリアの姿、南北の導線、交通のネットワークがどのように確保されるのか、フィージビリティ(実現性)をある程度示したうえで3区分は可能だという部分を見せた方がいいのではないか。土地利用も同じで、現状は北の方からグラデーションで市街地になっているが、現状がどうなっていて、10年後ここまで実現できる、という実現可能性を踏まえてこの区分を考えた方がいい。コンセプトとしてはいいと思うが、本当に可能なのか、可能でないのに分ける意味はない。
- 以前の委員会にも出ていた。将来の夢を描いた本を作るのか、本当にいいまちを作りたいのか、どっちなのかを前々から議論で出ている。東、中央、西地域の生活圏は、現状としてはあり得ない。新青梅街道で分断されたのではなく、昔から旧青梅街道の北側が観光やみどり豊かな居住地、旧青梅から新青梅街道の間とその南側が最初の住宅地や商業施設、といったまちであった。西側のグリーンタウンはもともと畑だったところに住宅ができたものであるが、ものによっては倉庫になっている。元々ある工業地域は、日産の方が多くいたが、最近の問題点は自分の工場になかなかトラックが入ってこれないということである。近くに小学校もあり、先日のトラック事故もあったこともあるが、このあたりの区画整理をしないと工業地域の中の道路を南北に抜けていくことは不可能である。東地域だと、村山団地と神明地域の方々が南北に動くかといわれたら、実際の生活圏を考えるとありえないと思う。実際の住環境で地域によっては南北の移動があるのであれば、3区分は考えられる。また将来こうしたいから3区分にしたというのであればまだわかるが、いきなり3つに分けられても。私が生きているうちには3区分にはなら

ないと思う。あと商工会としては、公共交通がなかったのが商売的には難しい。毎年数十件、商工会からの退会があるがその8割から9割の理由は廃業である。そういった部分を考えてまちづくりがないと困る。そんな時にこんなまちを作ったから来てほしいと言って人が来ても、もともと地元に住む人はみんないなくなってしまうのではないか。そのようなまちづくりになると困る。

◎ 3区分の扱いは、現状に即していないのではないかという意見であった。最初に重要なことをおっしゃっていたが、本を作りたのか、本当にいいまちを作りたのかと考えると後者である。その際に現実論というのが大切であるが、この3区分だと現状を見ていないのではないかという意見であった。

● 事務局としては、委員が言っている意見も重々承知である。将来的に日本全体が人口減少によって縮小していくと予想されている。これを踏まえると、最終的には集約型のまちづくりも検討していかなくてはいけないと考えている。現状は地域特性によってまちづくりの様子も違うが、最終的には利便性の高いモノレールの周辺にまちを集約していく考えを書きたくて、北側と南側のネットワークも考えていく必要があると考え、3区分にした。また、長期総合計画で定められている将来都市構造の中の都市核とサブ核が2つあり、各地域に核が存在するため、核を中心にまちづくりを進めるために3区分に整理したいという考えである。

◎ それはわかるが、第1章、第2章で都市の将来像を議論して、集約型のまちづくりが必要であるならば、こういった都市構造にしてく、という共通認識を図る必要である。現状はこうであるが、モノレールという新たなインパクトが入ってくるため、都市構造を変えなくてはならない、そのため3区分に分けた、というように都市構造の議論をしてからであればわかる。将来をこのように変えていかないと武蔵村山市としてはやっていけない、ということ説明していただきたいかった。その説明がないために、現況と違うという意見になってしまう。将来都市構造を議論して、全員が同意できなくても同じベクトルを向くようにしてから、地域区分をすべきであった。区分ありきでないかだめなのか。

● 将来都市構造や武蔵村山市としてどのようなまちづくりをしたいかという議論がない中で、このような説明をしてしまったことに関して、事務局の進め方に関する考えが至らなかった。次回以降、将来都市構造や市の現況を示しながら、地域区分や分野別方針についての意見がいただければと思う。

◎ 市として良くなっていただければそれでいい。大きな目的があってそのためのエリア分けがあり、更に細分化して現実的な何をするか示していただければと思う。

- ◎ 先日、千葉で痛ましい事件があった。武蔵村山市は工業で成り立っており、周りに小学校があることを考えると、小学校区や中学校区ごとで地域区分は切れているのか。アンケート結果でも圧倒的に道が狭いという意見が多かった。次の武蔵村山市を担っていく子供たちが危険な目に合わないように、小学校区ごとで地域が分かれているのか確認して、その中でスクールゾーンの整備を進めて、安全性を確保していく。この地域区分によって小学校区が分断されている箇所はあるか。今日回答は不要だが、市民の生活レベル、例えば小学校区や中学校区、町丁目ですっきり切れるのか等、商圈や自治会といった市民が活動しているレベルがある。小学校に関してはPTAなどもある。今回の地域区分によって活動レベルが分断されてしまうのは困る。一度精査してほしい。商工会や農協は1つなのか。
- 商工会は1つである。
- 農協も1つである。
- ◎ 商工会や農協は1つであるが、他の市民の活動レベルも把握しておいた方がよい。
- そもそも地域区分をしなくてはいけぬのか。他都市のほとんどの都市マスでも区分しているが、概念にとらわれているように感じる。新青梅街道沿いや商業エリアなど特徴あるエリアを扱っていけばいいのではないか。一般的なエリアは、全体計画に含めて施策を展開することができる。無理に地域を分けるような必要はないのではないか。他の自治体でも滅多にない例であるため、強い意見ではない。重要なエリアをもっと見せていくことが大切である。今回であればモノレールを強く見せていこうということだと思うが、武蔵村山市では他にも見せるべき重要な場所があるのではないか。改めてそういった見方でエリアを考えていく必要がある。
- ◎ 都市マスは誤解があるが、運用指針に沿ってやらなくてはいけぬわけではない。標準的な考え方の話である。
- 副委員長の意見のように、庁内委員会でもエリアにとらわれる必要はないという意見をいただいた。事務局の方でも、皆様の意見を取り入れて、再度検討したいと考えている。次回以降、地域区分について示していきたい。
- ◎ そのような議論を行うにあたって、武蔵村山市の都市の将来像をみんなでも議論していくべきである。今日のまとめだが、今回の分野別方針と地域区分の方向性を決定することはできない。次回、もう少し武蔵村山市の将来構造を議論し、ベクトルと方向性を決定して以降、再度分野別方針と地域区分について決定していきたいと思う。更にアンケート結果についてももう少し分析したものを示していただき、将来都市構造とまちづくり目標について議論していきたいと思う。次回は議論のできる資料

	<p>を用意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 承知した。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回策定委員会は令和3年10月上旬を予定している。本日いただいた意見を基に、全体構想の将来都市構造やまちづくり目標の考え方を整理しお示ししたいと思っている。詳細な日程に関しては、確定次第開催通知にてお知らせする。 本日の議事録は、事務局にて案を作成したのち、皆様に郵送・メール等で御確認いただく予定である。</li> </ul> <p>◎ 今回は、事務局でストーリーを立て、第1章、第2章の骨格の決定ができるような議論の場を用意していただきたい。</p> <p>○ 武蔵村山市の現状から将来都市像を考えていくことも重要であるが、今都市に何が求められているか、都市計画の最新の動向も把握して、これから先の10年を考えてほしい。データの活用方法や機動的に変えていく都市計画や、民間活用、カーボンニュートラルといった様々なキーワードがある。全て入れるのは難しいが、新しい都市の概念も踏まえて全体構想の一部にしてほしい。</p> <p>◎ テレワーク等、ライフスタイルが変わっている時期である。あと2年で関東大震災から100年経つ。関東大震災の時に、都心部で死者も多く危険であるということ、電車も普及し始めたことから通勤通学の概念ができた。ICTの普及により通わなくても仕事ができるという、ライフスタイルの変化が来ているときである。そういったときに策定する計画であるため、未来志向や未来の先を見据えながら計画してほしい。他に意見がなければ、第2回武蔵村山市まちづくり基本方針策定委員会を閉会したいと思う。閉会後の意見については、今週いっぱいを目途に事務局に連絡してほしい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

<p>会議の公開・ 非公開の別</p>	<p>■公開 □一部公開 □非公開</p> <p style="text-align: right;">傍聴者： <u> 2 </u> 人</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p style="font-size: 2em;">( )</p>
-------------------------	---

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示	
	<input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：	）
	<input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：	）

庶務担当課	都市整備部 都市計画課 計画係（内線：272、274）
-------	-----------------------------

（日本工業規格A列4番）